

みの～れは地域社会の羅針盤



四季文化館企画実行委員会委員

やす とみ ゆう すけ
安 富 悠 介さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.217

幼少期を東京都世田谷区で過ごし、商店街の大人たちがまちおこしで始めた阿波踊りを通して可愛がってもらったことが活動の原点。金融機関を経て教員へ転職し、妻の実家のある茨城へ。四季文化館企画実行委員で石岡市にお住まいの安富悠介さんにインタビューします。

住民主導の 体験学習の場

世田谷区で生まれ育つも、父親の仕事の関係で小学校時代は日立市へ。都内に戻ることになっても、茨城の自然環境が大好きで「自分だけでもいいから日立に残して欲しい」と言っていたという安富さん。

高校時代はアメリカンフットボール部に所属。優勝を目標にしてきたのに、道半ばで敗退。情熱の注ぎ先を失った空虚感から「何か目標を立てなければ生きていけない」と思い、司法試験を目指すために法学部へ進学したものの「何か違う」とモヤモヤ。ちょうどその頃、起業家輩出プログラムを手がけるNPOの代表と出会い、1年間インターンを経験。当事者意識を持って生きていくことの大切さを学びました。

その後7年間金融機関で働きながらも「週7日毎日楽しいと思える人生を送りたい」と考え、自身の原点である世田谷区の阿波踊りに参画。地域の子どもたちと関わる中で、かつて諦めてしまった教員になりたいと強く思うようになりました。3年間で大学院卒の教員免許が取れる兵庫教育大学のプログラムを見つけ「今だ」と即決。ちょうどその頃、由紀子さんと出会い、結婚して兵庫の学生世帯寮に入りました。

晴れて教員となり、由紀子さんの実家がある石岡市に移住。かつて自分が育った3世代が交じり合う「斜めの関係」を探していました。そんな時に由紀子さんが見つけたのが「演劇ファミリーMYU」のお試し体験のチラシ。未就学児対象でしたが「どんなことやりたい？」と対話から始まることに衝撃を受け、「年齢に関係なく一人の人間として尊重されることに驚きました。僕が生み出したいと思う景色が、みの～れにありました」。

現在は小学校教員として「主体性」と「当事者意識」を軸に教育活動を実践中。四季文化館企画実行委員会委員に就任し、「みの～れの全体的な仕組みや活動内容、目指していることが見えてきました」と安富さん。住民主導で進めるとはどういうことか、その苦労や難しさも実感。仕組みだけではダメ、感情だけでもダメ。それぞれ参加参画する人たちが分断されないよう、橋渡し役を意識しています。

「みの～れは体験学習ができる本当に貴重な場所。地域社会の未来の羅針盤だと思います。僕をここに引き込んでくれた妻と娘に感謝しています」と、笑顔で語ってくれました。（藤田佐知子）

「みの～れは体験学習ができる本当に貴重な場所。地域社会の未来の羅針盤だと思います。僕をここに引き込んでくれた妻と娘に感謝しています」と、笑顔で語ってくれました。（藤田佐知子）